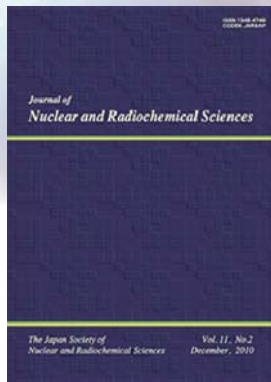


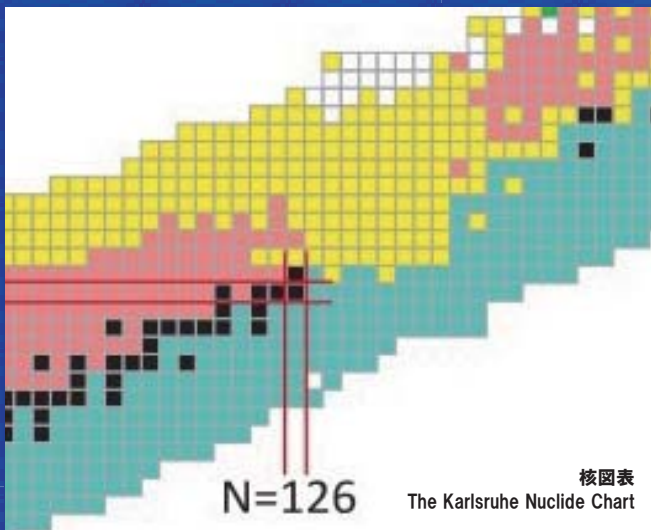
放射化学会の活動内容

日本放射化学会では、核化学・放射化学に関連する基礎及び応用研究の推進、知識の普及並びにそれらを担う人材の育成を7つの部会が中心となり行っています。

- 学会誌の刊行：英文誌 JNRS、和文誌「放射化学」
- 年次大会(放射化学討論会)の開催：毎年9月頃
- APSORC 国際学会の開催：4年に1回
- 国内外の学術団体との協力
- 放射化学の普及、放射化学教育、人材育成
- 放射化学研究の奨励、研究業績の表彰



日本放射化学会の学会誌
英文誌 Journal of Nuclear and Radiochemical Sciences (JNRS)、和文誌「放射化学」を刊行し、研究成果を発信しています。



〒590-0494
大阪府泉南郡熊取町朝代西2丁目1010
京都大学複合原子力科学研究所内
一般社団法人日本放射化学会
<http://www.radiochem.org/index-j.html>



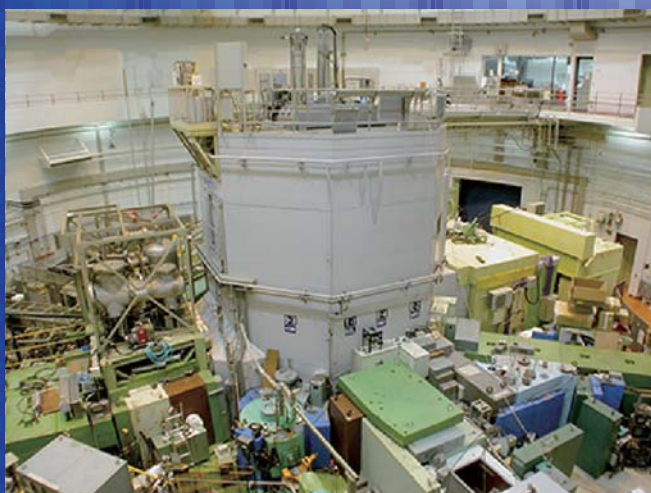
入会申請ページ
<https://jnrs.smoosy.atlas.jp/admission/agreement>
問い合わせフォーム
http://www.radiochem.org/community/toiwa_o.html

一般社団法人 日本放射化学会 放射化学の夢 ロードマップ (2024年度版)

2020 2030 2040 2070+ 夢

放射化学の未来

検索 放射化学 ロードマップ



京都大学複合原子力科学研究所 京都大学研究用原子炉(KUR)



一般社団法人 日本放射化学会



The Japan Society of Nuclear and Radiochemical Sciences

原子核プローブ部会

「原子核プローブの科学」は、原子核による放射線の共鳴吸収現象や物質中に導入された不安定核・素粒子の放射壊変現象を利用して、超微細場や局所構造など、物質内部の微視的情報



を原子レベルで探る研究分野です。現在ではプローブ生成技術の目覚ましい進歩により、様々な凝縮系の物性研究に欠かせない分野として成長を遂げています。

アルファ放射体・環境放射能部会

アルファ放射体・環境放射能分野は、環境放射能研究を中心に、放射性核種の動態解明やそのための手法開発に関わるあらゆる研究が対象です。放射性核種の動態解明は、放射性廃棄物の地層処分や廃炉など人類の安全安心やトレーサー利用など社会に必須な放射化学の確立につながるため、幅広い分野に波及効果を持つと考えます。アルファ放射体・環境放射能部会は、「超微量分析」「環境研究」「周期表」におけるフロンティアの開拓を目指して活動しています。

放射化分析部会

放射化分析の特徴は、多元素分析が可能であること、非破壊分析が可能であること、高感度であること、分析精度に優れることなどが挙げられます。このため、環境汚染の原因となる元素を見つけたり、資源探査に役立ったり、考古学試料の産地同定を行ったり、高純度材料の評価を行ったり、と活用されています。放射化分析部会では、放射化分析に必要な原子炉等の大型施設、手法開発などの情報共有、人材育成、将来計画（ロードマップ）の検討などを行い、この分野の発展に寄与することを目的として活動しています。

放射化学が未来を拓く！

放射化学研究のさらなる発展と活性化を目指し、社会の今を支えるとともに、豊かな未来を切り拓きます。



教育部会

放射線教育の「いま」と「これから」を見据え、教育手法の開発、イベントの開催、講師の派遣などを通じて、日本の放射線教育の充実と会員の教育活動の活性化をはかり、また若手の会とともに大学院生や若手研究者の育成支援に力を入れています。

放射化学塾
— イオン交換樹脂を用いた化学分離 —
日本放射化学会編

(7)カラムについて
①使い捨てにできるカラム
スポイトの頭の部分を切り取る
微量分析や放射性元素の分離には大変しやういポリエチレン製スポイトを使うと便利
切り取る

(11) 溶液液、濃度、樹脂の種類による元素の分離
①陰イオン交換樹脂による元素分離
硝酸濃度と各元素の分配係数
分配係数 (樹脂への吸着量/溶液の残存量)

硝酸濃度

分配係数

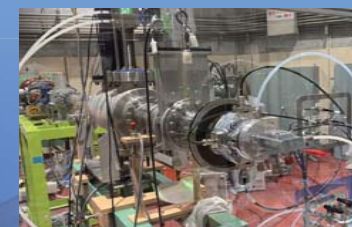
10000
1000
100
10
1

1 5 10M

保障措置とは？
Atoms for Peace (平和のための原子力)
国際連合の下に国際原子力機関 (IAEA) を設立 (1957年)
原子力を平和的利用から核兵器等へ転用しない
IAEA

核化学部会

核化学は、多彩な原子核反応を駆使して、未知・未開発の核種を生成したり、新元素やエキゾチック原子を創成する、つまり物質の極限領域への挑戦を行う分野です。また原子核系（核子多体系）と原子系（軌道電子系）の相互作用・微細相互作用を視野に入れ、極限的な単一原子の化学の概念や少数原子の操作技術などを背景として、これまでにない原子を創造しようとする“現代の錬金術”とも言えるでしょう。



原子力化学・アクチノイド化学部会

原子力化学・アクチノイド化学部会は、原子力に係る化学全般を扱う原子力化学とアクチノイドに係る化学全般（アクチノイド化学）に関する部会です。

原子力化学では、核燃料サイクルのフロントエンドやバックエンドに係るもの、近年では原子力事故や災害に係るものまで広がっております。アクチノイド化学の分野では、原子力に係るもののみならず、同じf電子元素であるランタノイドの化学に関しても対象としております。



若手の会

若手の会は、日本放射化学会における若手の研究活動や若手間交流の活性化を目的として活動しています。討論会期間中に若手が一同に会する総会や懇親会を開催しているほか、若手が自身のキャリアを考えるきっかけを得られるよう講演会も行っています。

